

エンカウンター（ENCOUNTER）

第 7 号

平成14年11月20日

ビリー・グラハム「きょうのみことば」より（3）

2月5日

聖書には、「キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられた……」と記されている。もし私たちの主が、死ぬほどに教会を愛されたとすれば、私たちは、教会をサポートし、教会に出席して、教会を尊重すべきである。私は、セオドア・ルーズベルトの次のことばが好きだ。「あなたは、どこにいても、いつでも、神を礼拝してよい。しかし、あなたはまず、どこかある特定の場所で、ある特定の時に、礼拝することを学ばなければ、おそらくそれをするとはしないであろう。」

2月7日

この人生には、悲しみと苦難のさなかにあって、神の御手から与えられる多くの祝福と楽しみがある。愛するという私たちの能力すら、神からの賜物である。私たちは、神が私たちに与えてくださったものの一部を神にお返しすることによって、私たちの感謝を示すのである。

2月9日

ある日、私は、単純な信仰の行為によって、イエス・キリストをそのお言葉通りに受け入れる決心をした。私は、知力のみで、それをするにはできなかつた。だれにもできないのである。そのことは、私たちが理性を拒否することを意味しない。神は、私たちに、知力を与え、推理することが適切なところではどこでも推理する力を与えておられる。しかし、最後のな、そして決定的な一歩は、信仰によって踏み出されるのである。私は信仰によってそれをした。人が、その罪を悔い改め、信仰によってキリストを受け入れ、最終的、決定的な一歩を踏み出すとき、それは有効に作用するであろうか。私の言えることは、私自身の人生において、それが有効に作用したということだけである。何かが私に起つた。私は完全になつたわけではない。しかし、私の生活の方向が変わつた。生活の新しい次元を見いだしたのである。これまで全く知らなかつた新しい、愛する能力を見いだしたのである。

2月11日

神は、クリスチャン一人一人のための人生の計画をもっておられる。あらゆる環境、あらゆる運命の転換は、一つ一つあなたの益となるものである。それは、共に働いて完成されるのである。

あなたのための神のご計画は、完成されつつある。万事が、共に働いてあなたの益となり、神の栄光を現すこととなる。

私たちのうちの大半のものが、自分たちの意思を神のみこころに一致させようとする代わりに、自分たちの望むように環境を変えてくださいと神に願っている。環境の故に悩み苦しむことをやめよ。むしろ、それらの環境において、またそれらの環境を通して、あなたの生涯に対する神のみこころが示されることを求めよ。

2月17日

天国はどのような種類の場所だろうか。

先ず第1に、天国はホームである。聖書は、「ホーム」という語を、そのすべての愛情にあふれた連想およびそのすべての聖なる思い出と共に取り上げ、天国はホームであると告げている。

第2に、天国は永久のホームである。私たちは、キリストに従う者たちが永遠にそこにとどまるホームの約束を持っている。

第3に、聖書は、天国が想像を絶した美しいホームであると教えている。天国は、そのような所とならざるを得ないのである。

第4に、聖書は、天国が幸福なホームであると教えている。なぜなら、それを悲しい場所とするものが何もないからである。

天国において、家族の者たちや友人たちは再会するのである。神の家は、幸福なホームとなる。なぜなら、キリストがそこにおられるからである。彼は、天国の中心であられ、すべての心は彼に向けられ、すべての目は彼に注がれるのである。

3月19日

私たちの偉大な宇宙ロケットの開発において指導的な人物であるヴェルナー・フォン・ブラウン博士は次のように言っている。「19世紀の唯物主義者や20世紀のマルクスの後継者たちは、科学が想像に関する多くの知識をもたらすに連れて、私たちは創造者を信じる信仰なしに生きることが可能であると、私たちに告げようとした。しかし、これまでのところでは、新しい答えが与えられるたびに、私たちはさらに新しい疑問を見いだしているのである。原子の構造、命の本質、銀河系の優れた設計についての詳細を、私たちが理解すればするほど、私たちは、神の創造のすばらしさに驚嘆するさらに多くの理由を見いだしているのである。しかし、神に対する私たちの必要は、畏敬のみに基づいているのではない。人間は、食物、水、空気を必要とすると同様、信仰を必要としているのである。世界中のすべての科学の成果を寄せ集めても、私たちは、なお、神を信じる必要がある」と。

3月27日

聖書にある実例のほとんどすべてにおいて 人生においても同じであるが、 高ぶりは、失敗とかかわっており、成功とはかかわっていない。私たちは、劣等感についてよく耳にするが、高ぶりの優越感について話されるのを聞くことは、ほとんどない。ルシファールの墮落を引き起こしたのは、高ぶりであった。そして彼は、悪魔(サタン)となったのである。サウル王を恥ずべき早死にに追いやったのは、高ぶりであった。ペテロに主を否ませたのも、高ぶりであった。宇宙の歴史における最も偉大なへりくだりの行為は、イエス・キリストがご自分を低くし、カルバリの十字架において死なれた時になされたのである。そしてどのような人も先ず、十字架のもとにひざまずき、自分が罪人であることを、神の十戒を破っていることを、そして、キリストにある神の恩寵を必要としていることを認めるのでなければ、天国に行くことはできない。どのような人も、高ぶりの心をもって救い主のみもとに行くことはできないのである。

3月30日

キリストの死を見つめよ。偉大な米国人、ダニエル・ウェブスターの伝記では、863ページが自分の経歴を取り扱い、ただの5ページが、彼の死のために割かれている。ヘイ著アブラハム・リンカン伝は、5000ページに及ぶものであるが、彼の劇的な暗殺と死について述べているのは、わずか25ページである。たいていの伝記において、テーマとなっている人物の詩は、その本における単なる1事件に過ぎない。しかし、イエスの4つの「伝記」である4福音書では、私たちは、奇妙な事実直面させられるのである。マタイの福音書の3分の1が、キリストの死の記述のために割かれている。マルコの福音書の3分の1、ルカの福音書の4分の1、そして、ヨハネの福音書の半分が、彼の死のために割かれているからである。これらのページはすべて、彼のご生涯の最後の24時間の出来事を中心に述べている。イエス・キリストの死は、人間の歴史における最も重要な事実である。なぜなら、イエス・キリストは、罪人たちのために死ぬという特別な目的でおいでになったからである。彼は天国を去られたとき、ご自身が十字架につこうとしておられることを、知っておられた。

4月4日

神の経綸によれば、あなたは、靈的栄光の絶頂によじ登る前に、先ず悲しみの谷に下らねばならない。あなたは、キリストとの交わりを求め、それを見いだす前に、先ずあなた自身の生活に疲れ、飽き飽きしなければならぬ。あなたは、あなたが本当に生きることを始める前に、先ず自我の終点にまで行き着かねばならない。

自分がいたらないものであるという嘆きは、神の注意を引く啜り泣きである。聖書には、「主は心の打ち砕かれた者の近くにおられ、たましいの砕かれた者を救われる」と記されている。私の人生における最も幸福な日は、私自身の能力、善良さ、そして徳性が神の目には不十分なものであることを悟り、公然とあからさまに、キリストを必要としていることを認めた時であった。私が、私の嘆きは喜びに変わり、私のため息は歌に変わったと言う時、それは誇張ではないのである。

ビリー・グラハム先生の祈りの勧め

平成14年11月16日 山口 周三

私は、ビリー・グラハム先生から、毎日祈れと教えられました。そして祈るときは、次のように祈れと教えられました。

「愛する父なる神よ。私は、自分自身罪が人であり、あなたの赦しを必要としていることを知っています。私は、キリストが私の罪のために死んでくださったことを信じます。私は、進んで私の罪に背を向けます。私は今、イエス・キリストを私の救い主として私の心と生活の中にきてくださるようお招きします。私は、あなたのお助けにより、進んでいのちの主なるキリストにお従います。」

私は、小西先生に教えていただいた信仰を付け加えて、ビリー・グラハム先生に教わったお祈りの前半を少し変えて、「御在天の父なる御神様。私は罪人、罪人のかしら、わが罪をお許し下さい。イエス様が私の罪の罰の身代わりとなって十字架にかかり給いわが罪を許し、永遠の生命と復活をお約束下さいました。」と祈ります。

次に、『小西芳之助先生余芳』に小西美江夫人によって書かれている以下に記す小西芳之助先生のお祈りを参考にして、信仰の先生方、家族、親兄弟、友人、知人のために祈ります。

「小西の日課は、お祈りから始まります。」

『パウロ、ルター、源信、内村、島村、モーク諸先生（続いて、先祖、両親の名を一人一人いい）、以上の方々の地上の御生涯を感謝いたし、現在その方々の上に、神の恵みが豊かでありますように。

石館長老、奥様、その御一族（続いて責任役員の一人一人のお名前も右のように挙げ）の上に健康と信仰とをおあたえください。』

次に教会員の中の病人、その家族、悩みを持ったもの、その家族のために一人一人名前を挙げて祈ります。そして次に、

『高円寺東教会に属する方々とその家族、私の話を聞いてくださる方々、私のものを読んで下さる方々、それらの方々の上に健康と信仰とをお与え下さい。』

芳之助、美江、伝一、堯子、順二、和加、暁美、スワ子（続いて孫の名を順にいい）以上一族20人の上に健康と信仰とをお与え下さい。二人の孫には、よき配偶者とよき子女をお与え下さい。

主イエス・キリストの御名によりお祈りいたします。アーメン』」

祈りについては、同じ『小西芳之助先生余芳』に載っているエルマー先生の次のような文章も参考になります。

「小西先生は、もう高円寺東教会の牧師館から電話を下さることはありません。しかし、今では、小西先生は、先生が愛した大勢の人々に対して、先生の説教と素晴らしいクリスチャン・ライフの思い出とによって、天にある住み家の神の電話局を通して、先生の喜びのメッセージを送り続けることでありましょう。」

祈りは、先に天国に行った人との電話だと思えます。ですから、祈りのたびに、信仰の先生、亡くなった両親、友人に電話をするようなつもりで、自由に語りかければいいのだと思えます。

祈りのことを、キリスト教を学び始めた最初の頃は、自己満足に過ぎない、祈って一体何になるのだろうと思っていましたが、ビリー・グラハム先生や小西先生から教えていただいたお祈りを続けているうちに、祈りこそ、クリスチャンが神様から力や勇気を頂く秘訣であると確信するようになりました。

ですから、皆様もどうぞ、ビリー・グラハム先生の勧めに従って、毎日決まったときに祈りを続けてみてください。

小西先生の称名は、「わが主イエスよ」という簡単な祈りです。キリスト教にもいろいろと教えがありますから、気がまぎれてしまいましたが、どんなに忙しいときでも、どんなに多くのことを学んでいるときでも、「わが主イエスよ」という祈りは、簡にして要、これだけ祈っているだけでも十分なのです。

しかし、その小西先生も毎朝、前に記したような長いお祈りをされていたのです。

どうぞ、共に祈りましょう。